

## 前回（Z E H協 第4回太陽光発電委員会）議事録

- (ア) 議事サステナブル先導的モデル事業L C C M補助採択の情報共有
- ・国交省発表では合計752戸が採択され、うちZ E H協が約3割を占める。他は、ハウスメーカーで一社50棟。つまり、全国のビルダーでは、Z E H協が20社で過半数を占める形。(小山代表理事)
  - ・面的な広がりでは普及推進が始まったとも言える。太陽光発電の大容量マーケティングにもつながる。(同)
- (イ) Z E H協セミナーの案内・情報共有
- ・L C C M視察研修会も開催。エコワークス社モデルハウス。整理のためメーカーには推奨。次回は3月に。(小山代表理事)
  - ・ユーザー目線で見ると価値あり。改修型のZ E H住宅もあり。ぜひ見学してほしい。(P Vソーラーハウス協会南野委員)
- (ウ) Z E H協ビルダー会員に対するアンケート
- ・アンケート完成。11月7日までに意見あれば受け付け。(荒川事務局長)
  - ・ぜひいいアンケートにしたいので、200社のビルダーに応じてもらう予定だが、大手にも働きかける。(小山代表)
- (エ) 太陽光メンテナンス・長期修繕の業界整理について (西川委員長)
- (オ) 長期保証、長期経済性の考え方 (西川委員長)
- (カ) 長期、長期経済性の考え方 (西川委員長)
- ・各メーカーからの施工状況について。
  - ・点検ガイドラインについて、必ずしもすべての不具合を見れるわけではない。全て見ようと思うと、天気依存となってしまう。しっかりとした資格を求めると、コストも人も回せない。レベル分けをし、業界団体で入り口レベルは低くし、いつでも回せる体制がないと、稼働時間を取られる。数が多いこと、点検で追加にお金をもらうことは難しい。地元の点検ネットワーク作りは業界として必須。(植田先生)

- ・長期メンテの議題の理由は、Z E H普及としてメリットを説明するべき。

住宅は最低30年。太陽光の保証はビルダー目線でいくと短く、メンテナンスを施主に問われた時の、太陽光業界のプラットフォームがないことが、議論のはじまり。Z E H協として、一定のビルダー向け点検のルール作りをしたい。経済メリットの享受と、ご利用方法を周知したい。(小山代表理事)

#### (キ) 九州電力の出力制御実施について (西川委員長)

- ・福岡、熊本を商圏としており、エコワークスとしては、出力制御への質問はない。しかし、新聞で出ていますがしっていますか？という問いかけをすると「聞いていかかわからないが心配」という声がほぼ全員。九州の新聞では、一般の読者では、住宅用は秋は出力制御しないと小さく書いていることから、見出しだけで大きなブレーキとなっている。社員への教育が必要であるが、多くのビルダーが回答できないはず。「ユーザーもやっぱりね」となっているので、メーカーから積極的に正しい知識を植え付けたい。(小山代表理事)
- ・月刊スマートハウス11月号にて、出力制御の必要性について記載。会員には周知。(荒川事務局長)
- ・ネガティブな情報ではなく、電力を高く買ってくれる地域の方がメリットがあるとビルダーには施主にするよう伝えている。(P Vソーラーハウス協会 南野委員)
- ・制御された電源こそ一人前。国は再生可能エネの導入は進めていくので、なるべくこれをビルダーや施主に言うことが良いと思う。国の施策としてP Rをしていくことが、ビルダーの応援になる。(西川委員長)
- ・太陽光発電を導入することで、高い電気を買わなくてよくなることを伝えてほしい。こういった需要シフトの過程で見いだされる太陽光発電の活用について、情報発信していくべき。(植田先生)

#### その他報告

高度エネマネ委員会の設置を検討。本日(10月31日)にキックオフ会を開催。

Z E H+とその先に何があるのかを、説明できれば。